小田野直武「唐太宗・花鳥山水図」（秋田県立近代美術館蔵、重要文化財、部分）

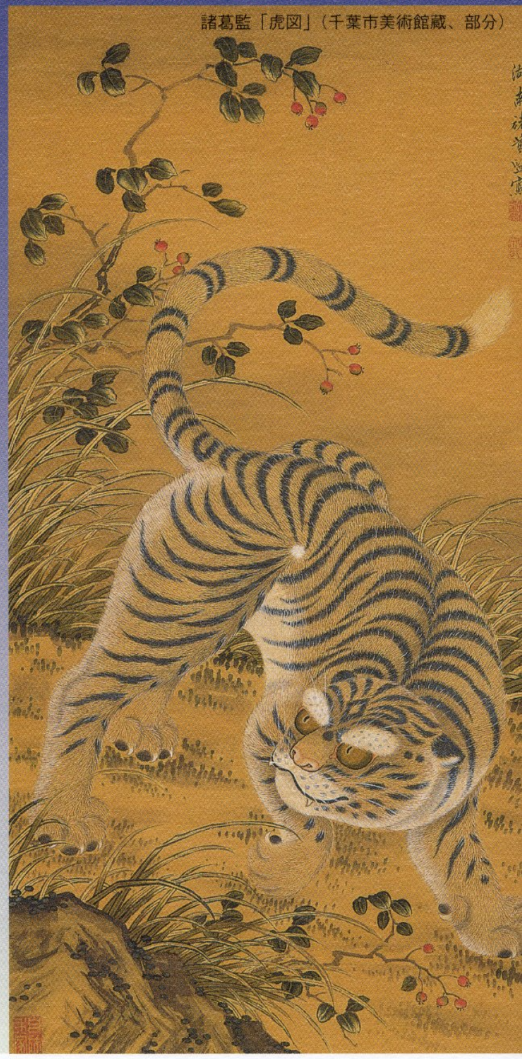
伊藤若冲「月夜白梅図」（個人蔵）

新世紀・市制施行80周年記念

江戸の異国趣味

―南蘋（なんぴん）風大流行―

司馬江漢「西王母図」（千葉市美術館蔵、部分）



諸葛監「虎図」（千葉市美術館蔵、部分）

平成13年 10月30日（火）～12月9日（日）

毎週月曜日休館

開館時間／午前10時～午後6時（金曜日は午後8時まで）
入館は閉館30分前まで　ただし11月23日（金）は祝日のため午後6時閉館

入場料／一般1000円（800円）　高・大生700円（560円）
小・中学生300円（240円）
（）内は団体30名以上または前売りの場合の料金
＊前売券は、JR東日本びゅうプラザ（9月25日から12月9日まで）、千葉市美術館ミュージアムショップ（10月28日まで）等で発売

千葉市美術館
Chiba City Museum of Art

宝くじは豊かさ築くチカラ持ち。
宝くじは、広く社会に役立てられています。

主催／千葉市・千葉市美術館　共催／財団法人　自治総合センター　お問い合わせ先／043-227-8600（ハローダイヤル）　ホームページ／http://www.city.chiba.jp/art

新世紀・市政施行80周年記念

江戸の異国趣味

―南蘋風大流行―

18世紀江戸絵画に吹き込んだ新しい風

会期中作品保全のため展示替を行いますのでご了承ください

享保16年（1731）、長崎に一人の中国人画家がやってきました。彼の名は沈南蘋（1682～1760～？）。彼の画風は本国の中国ではやや時代遅れになりつつありましたが、その精緻な描写と濃密で華麗な彩色により、当時の日本絵画に非常に大きな影響を与えました。直弟子熊斐（1712～1772）を経て長崎から上方へ、そして江戸へと南蘋の画風は広まりました。折からの博物学の流行もあって写実的な描写が喜ばれたのです。

その影響は「長崎派」と称される、南蘋風を専らにした画家に限りません。奇想の画家として近年注目を集めている伊藤若冲（1716～1800）も南蘋風を通過して自らの画風を築きました。写実的でかつ装飾的な画風によって近代日本画の源流となった円山応挙も若い時期南蘋の画風に学びました。日本における銅版画の祖、司馬江漢も文人画家・俳人として知られる与謝蕪村も一時的には南蘋風の絵を描きました。洋風画のさきがけである秋田蘭画も強く南蘋風の影響を受けています。松平定信・増山雪斎といった大名たちも南蘋風の作品を描きました。秋田蘭画の主要人物の一人、佐竹曙山も大名です。

南蘋風の作品が多く残っているということはそれだけ支持されたということです。一番身近な「異国」である中国の雰囲気を伝える沈南蘋の画風。ときにはもう一つの異国オランダへの興味関心とも接近します。本展覧会は沈南蘋の画風が江戸時代の絵画にもたらしたものを総点数137点で検証する試みです。大名・旗本といった殿様たちが熱心に取り組んだのも興味深いところです。

1

2

3

4

5

1／与謝蕪村「野馬図」（個人蔵）
2／柳沢伊信「海棠芥子綬帯鳥図」（神戸市立博物館蔵）
3／蠣崎波響「瀑布双鳩図」（田中實氏蔵）
4／熊斐「登龍門図」（長崎市立博物館蔵）
5／宋紫石「儋州仙蓮図」（個人蔵）

[同時開催]

「所蔵作品展　有相無相（仮称）」
10月2日（火）→11月4日（日）

「所蔵作品展　実験工房の作家たち（仮称）」
11月13日（火）→12月9日（日）

[催し物案内]

講演会／午後2時より（開場午後1時30分）
11階講堂にて　入場無料　先着150名様

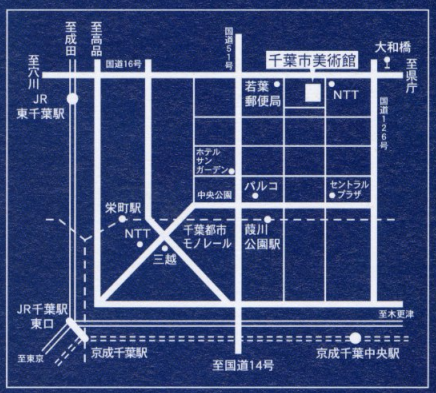
・「南蘋派出現のころ」　11月10日（土）
講師：成澤勝嗣氏（神戸市立博物館学芸員）

・「秋田蘭画流行せず」　11月17日（土）
講師：安村敏信氏（板橋区立美術館学芸主査）

ギャラリートーク／午後2時より
参加自由＝7階展示室入口にお集まりください
11月7日（水）
11月24日（土）
11月28日（水）
12月8日（土）

交通案内

・JR総武線千葉駅東口より　徒歩15分
バスターミナル7番のりばより3つ目のバス停「大和橋」下車2分
千葉都市モノレール県庁前行き「葭川公園」下車5分
・京成電鉄千葉中央駅東口より　徒歩10分
・地下駐車場あり
（機械式のため混雑する場合があります。ご了承ください）



千葉市美術館
Chiba City Museum of Art

千葉市中央区中央3-10-8　　お問い合わせ先：043-227-8600（ハローダイヤル）
ホームページ：http://www.city.chiba.jp/art